

寒くなるにつれて増える病気の一つに、泌尿器系の病気があります。犬も猫もかかりますが、特に猫の症例が多くなります。アニコム損保の調べでは、猫が冬場に泌尿器系の病気にかかる可能性は、他の季節に比べて1.5倍になることが分かっています。

猫はもともと、泌尿器系の病気にかかりやすいといわれています。これは、猫の祖先が乾燥した土地で生き抜くため、少ない水でも体の機能を保てるように進化してきたことが理由です。水を飲む量も尿の回数も少ないため、尿をぼうこうに長時間ためてしまい、細菌が繁殖しやすく、トラブルが多くなるのです。

あ
ん
し
ん
ペ
ツ
ト
ラ
イ
フ
⑫③

寒くなるが増える病気

冬は、さらに尿の回数が減る環境にあることに注意してください。人も動物も、暑い夏は水をたくさん飲むため、尿の回数が増えます。しかし、寒くなると自然と水を飲む機会が減るため、尿の回数が減ってしまいます。

泌尿器系の病気を発症すると、尿に血が混ざったり、痛みでぐったりしたり、トイレの回数が増えたりします。発見が遅れると命に関わることもあるので、トイレの時の様子には気を配ってください。

家庭でできる予防策は2つ。1つは「水を飲ませる工

夫」です。例えば、水飲み場を増やす▽器の材質・サイズを変える▽水を一晩置いてカルキを抜く—などの方法です。いろいろな方法を試し、猫の好みを見つけましょう。

もう1つは、トイレの環境を見直すことです。猫はトイレにこだわる動物です。清潔であることはもちろん、設置場所や広さ、砂の種類などがポイントです。寒さが苦手な猫がトイレを我慢しなくてすむよう、温度にも気を配ってくださいね。

(アニコム損保

獣医師 中山舞)